

「女性の糖尿病」は50代から増加

## 自覚症状が乏しいため治療の開始が遅れることも

30代女性に比べて60代では4倍以上、70代以上では7倍以上に増えます

「糖尿病って男の人がなる病気でしょ？」

そんなふうにも思っている女性の方は、結構多いのではないのでしょうか？

私のクリニックを訪れる女性の糖尿病の患者さんの中にも、配偶者の健康管理にはかなり気を遣っているのに、ご自身の血糖値には無関心だったという方が多くいらっしゃいます。

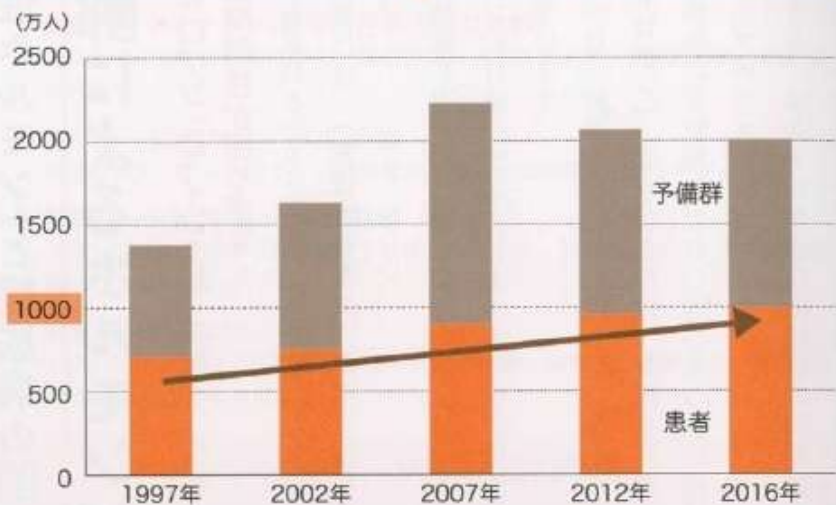
男性のほうが糖尿病の罹患率が高いのは事実です。2016年の厚生労働省「国民健康・栄養調査」を見ても、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性19・7%、女性10・8%と報告されています。

女性の場合、50代から患者数が増えはじめるのが特徴です。2019年の厚生労働省の調査では、30代の女性に比べて60代では4倍以上、70代以上では7倍以上、糖尿病の患者さんの割合が増えていることが報告されています（11ページ参照）。

糖尿病は自覚症状が乏しいため、定期健診などで血糖値をこまめにチェックしていないと、重症化するまで気づきにくく、治療の開始が遅れる傾向にあります。

特に中高年の女性の方は、体調に異変を感じても「きっと更年期のせい」「もう年だから」と、検査の受診に消極的になってしまいうことも多く、糖尿病を悪化させる場合がよくあります。

### 糖尿病患者と予備群の推計



厚生労働省「平成28年国民健康・栄養調査」より 厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成の資料

### 女性の糖尿病発生率



厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査」